

## 2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	解剖生理学実習(スパイロメーター)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部1年	学期及び曜時限	後期	教室名	機能訓練室
担 当 教 員	安丸 直希				
実務経験と その関連資格	理学療法士として総合病院や介護老人保健施設にて6年勤務。主に内部障害領域における急性期から生活期までのリハビリテーション、がん終末期におけるリハビリテーションに従事。健康科学修士、呼吸認定理学療法士、循環認定理学療法士、3学会合同呼吸療法認定士、心電図検定3級を取得。また、がんリハビリテーション研修会修了。日本理学療法士協会会員、日本心臓リハビリテーション学会会員、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員、日本呼吸理学療法学会一般会員、日本循環器理学療法学会一般会員、日本がん・リンパ浮腫理学療法学会一般会員、日本栄養・嚥下理学療法学会一般会員。				
《授業科目における学習内容》					
呼吸器の解剖生理を復習し、理学療法士が呼吸機能検査を学ぶ目的について説明する。実際に呼吸機能検査を行い、その結果を解釈し病態の理解を深める。 グループワークでレポート作成を行うことでより理解を深める。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト20% レポート80%					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
配布資料					
《授業外における学習方法》					
呼吸器の解剖生理を復習すること。特に呼吸のメカニズムについて説明できるようになることが望ましい。					
《履修に当たっての留意点》					
呼吸リハビリテーションにおいて呼吸機能検査は必須の評価です。そのため、データの解釈を行えるようになる必要があります。					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	呼吸器の解剖生理・呼吸のメカニズムを理解する。	配布資料	呼吸器の解剖生理を復習	
	各コマに おける 授業予定	呼吸器の解剖生理・呼吸のメカニズムについて学ぶ。			
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	呼吸機能検査の方法・結果の解釈ができる。	配布資料	前回の復習	
	各コマに おける 授業予定	呼吸機能検査の方法・結果の解釈について学ぶ。			
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	呼吸機能検査を検査者役と患者役として体験する。	配布資料	前回の復習	
	各コマに おける 授業予定	グループワーク(レポート作成)			
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	呼吸機能検査を検査者役と患者役として体験する。	配布資料		
	各コマに おける 授業予定	グループワーク(レポート作成)			
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	呼吸器の解剖生理・呼吸のメカニズムを理解する。	配布資料	呼吸器の解剖生理を復習	
	各コマに おける 授業予定	呼吸器の解剖生理・呼吸のメカニズムについて学ぶ。			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	呼吸機能検査の方法・結果の解釈ができる。	配布資料	前回の復習
	各コマにおける授業予定	呼吸機能検査の方法・結果の解釈について学ぶ。		
第7回	授業を通じての到達目標	呼吸機能検査を検査者役と患者役として体験する。	配布資料	前回の復習
	各コマにおける授業予定	グループワーク(レポート作成)		
第8回	授業を通じての到達目標	呼吸機能検査を検査者役と患者役として体験する。	配布資料	
	各コマにおける授業予定	グループワーク(レポート作成)		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			